

## 議員定数及び議員報酬調査特別委員会 摘 録

1. 開催日 令和4年12月23日(金) 第2委員会室
2. 出席委員 政野太委員長 桂藤和夫副委員長 堀井秀昭 福山権二 藤木百合子 國利知史  
松本みのり 近藤久子議長
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 花田譲二議会事務局長 横山和昭議会事務局議事調査係長 山崎啓介議会事務局主任
5. 説明員 なし
6. 委員外議員 横路政之副議長
7. 傍聴者 1名
8. 会議に付した事件
  - 1 付託事項の審査
  - 2 今後の審査について
  - 3 その他

---

午前9時59分 開 議

- 政野太委員長 これより、第6回議員定数及び議員報酬調査特別委員会を開会いたしたいと思えます。  
本日は、傍聴、録音を許可しております。出席は、もう全員そろっておりますので、直ちに協議に入りたいと思えます。

---

### 1 付託事項の審査

- 政野太委員長 まず、協議事項1ですが、付託事項の審査という項目でございますけれども、今、お手元に議員活動に関するアンケートの案をお配りさせていただいております。これにつきましては前回の委員会で、一度、たたき台の案を出させていただいたところ、さらに皆様方持ち帰りをいただいて、各党派それぞれ新しい視点を加えていただきまして、それを事務局で整理していただいて作成したものがこちらでございます。事前に資料をお配りさせていただいたので、一度、目を通していただいているのではないかとと思えますけれども、いかがでしょうか、このアンケートについて何か御意見があれば伺いたいのですが。松本委員。
- 松本みのり委員 無所属議員7名でこのアンケートについて話し合った結果、いろいろな意見が出てまいりました。まずは、タイトルがおかしいのではないかと。やるなら議員定数及び議員報酬調査のためのアンケートにするべきではないかという意見も出ました。議員活動に関するアンケートではなくてと。あとは、アンケートはつくり手の意図に誘導される部分が大きいので、やるやらないを含めてよく考えるべきという意見と、あとは、中身については問13までは要らないのではないかと。本当に聞きたい部分はそれ以降の項目だとおっしゃる方もいらっしゃいましたし。
- 政野太委員長 確か、およその期限を切って、事前にその報告を事務局にお伝えをいただいているのではないかとと思うのです。ですから、党派での協議された内容に漏れがあったのならば、おっしゃっ

- ていただいてもいいのですが、いかがでしょうか。それを考慮した上で、今回最終のものを今、提案させていただいているということで見ただけであればと思います。よろしいでしょうか。松本委員。
- 松本みのり委員　それを踏まえて最終的に事務局にもお伝えさせていただいていると思いますけれども、何のために定数、報酬を議論するのか。何のための特別委員会なのか。軸の議論をしっかりしてから、アンケートをするしないを決めてほしいという意見にまとまっております。
- 政野太委員長　今、松本委員から話がありましたけれども、何のためにアンケートをするのかというところの原点に立ち返った質問をいただいたのですけれども、その点についていかがでしょうか。堀井委員。
- 堀井秀昭委員　この特別委員会の設置は、議会、本会議で可決して設置しているので、設置の目的等については、議員の皆さん、既に御承知のはずなので、今の、議員から何のためにこの特別委員会を設置したのかという意見が出るということについては、大変遺憾に思うのですが、どんなものですか。
- 政野太委員長　横山係長。
- 横山和昭議会事務局議事調査係長　前回、10月の議論の際に、アンケート実施をする目的について、この委員会で討議をしていただいたと思います。その際、市民と議員の両方の声を聞きたいということで皆さん御賛同いただきまして、こちらのアンケートを実施するというので、設問について皆様の会派等で御確認くださいという形で皆さんの意思統一をしていただいたと事務局が考えておりますが、いかがでしょうか。
- 政野太委員長　松本委員もいろいろな意見を聞かれたと思うのですが、一応この委員会の中でも、市民アンケートあるいは議員アンケートについて、今後の参考にするためにアンケートをとるということで、了承いただいて進めているということでもよろしいでしょうか。松本委員。
- 松本みのり委員　大きな方向性を決めてからアンケートに向かってもらいたいという意見をいただいた。
- 政野太委員長　具体的な、大きな方向性というのは、どのような方向性でしょう。國利委員。
- 國利知史委員　私が意識しているのは、この大きな方向性を決めるためのアンケートなのではないかなんと思っているのですが、皆さんどうでしょう。
- 政野太委員長　そういう理解なのですが、多分何かの意見の相違があるのではないかと思います、松本委員、そこはよろしいですか。近藤議長。
- 近藤久子議長　松本委員さんが聞かれて、議員定数及び議員報酬調査特別委員会が何のために設置されたのかというのをまだ御理解いただいてない議員さんがいらっしゃるということですか。
- 政野太委員長　松本委員。
- 松本みのり委員　この議会を活性化させるためにこの議論をしていくのだよとか、そういう部分だと思ってしまうのですが、ただどこも減らしているからこの定数についてもここで考えなければなりませんではなくて。
- 政野太委員長　私の認識として、委員長として言わせてもらうのですが、決して他市が減らしているから、他市と比べてどうだからとかということで設置をされたものではないと思っています。庄原市議会は平成24年に審議をされて、25年に現在の定数と報酬になっている。それから、既に、もう10年が経過した中で、市民に対して、今の定数が正当である、妥当であると、報酬も妥当であるかということを理論づけるためにこの委員会が設置されたら、私は考えておりますので、だから決し

て、議会の活性化ということには、直接は、今は、関係ないかもしれませんが、最終的にはもちろん、一体、何人で議論すれば活性化するのかという議論をするのが、この委員会だと思っていますので、そのような御理解でよろしいでしょうか。松本委員。

○松本みのり委員　ぜひ、この議論の中で活性化につなげていけたらと思っています。

○政野太委員長　もちろん、最終的に定数を決めることについては、そういう議会の中の実際の活動であるとか、活性化ということについては外せない視点だと思いますので、それは今後、議論していきたいと思います。その他アンケートについて、いかがでしょうか。このアンケートなのですが、私も、市民と語る会等でいろいろな意見を聞かせていただく中で、いろいろな思いをお持ちの方もいらっしゃると思います。その御意見にきちんと正しく回答するためにも、議員はこういう活動をしているのだよということを、もっと事細かく、詳しく、できる限りこのアンケート内容の中でお答えをいただきたいなどは思っているのですが、だから最後に、問12の意見については、できるだけ記述式で記入をいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。それを皆さん各党派にお伝えをいただければと思います。横路副議長。

○横路政之副議長　1カ月、こういった時間配分を、今まで計算してこられた議員がおられるかどうかというのも少し疑問なのですが、非常にこの算出方法が議員個人の、要するに、仮に公表ということになりますと、少なすぎるとまずいのではないかという思いもわからないこともないと思うのですよね。だから、本当に正確にしてくださいということも言うておかないと、大体公表することになると、このあたりに市民の方は、ぱっと目が行きます。少し懸念を抱いたのですが、よろしいでしょうか。

○政野太委員長　藤木委員。

○藤木百合子委員　これはアンケートなので、どこの会派の誰がこうだということは出ないわけで、月平均の活動の時間は、議員全体として、このアンケートの結果、平均として、こういう活動が1カ月何時間というのを公表するというか、評価するということになるのかなと思うのですが、平均なので非常に行事の少ない月とか、あと一般質問があるときとかというので、また、準備に時間をとるとか、その辺の非常に1カ月、1カ月で変化が結構大きいのではないかなと思うのですが、そこら辺の平均値を出すというところがなかなか難しいかなと思います。

○政野太委員長　今回、こういう項目を6点設定したのですが、皆さん御理解いただけると思うのですが、ここに本会議や委員会の出席のほかということを書いてあると思うのですが、ですから、うちの場合は年に4回の定例会があって、それぞれ委員会がその間にあって、そういうものはもうベースとして、同時に市民の方に報告しないといけないかなと考えていますので、その間の期間に限られたことでありますので、それほど、だから、横路副議長が心配されるようなことは、僕は起きないのではないかなとは考えているのですが、だから、委員会、本会議はきちんと別途数字化して出せるものですから、例えば消防議会など、東城から行くと、結構早く、時間を拘束されますので、要するに行き帰りの時間とか、そういうのももちろん加算されるべきではないかと思っています。よろしいでしょうか。松本委員。

○松本みのり委員　自分の活動を考えてみても、365日議員と思って活動していますけれども、では、1カ月これに何時間ということを出せるかと言われると本当に書きようがないなと思って、今、見させていただいておりました。皆さんはいかがでしょう。

○政野太委員長　いかがでしょうか。局長。

○花田讓二議会事務局長 ①から⑥のところの項目として少し、時間を探しやすいようにしているという状況とあっていただければいいのではないかと。例えば、議員として、いろいろな活動をされているのは、ほぼその他のところになっていくのかなと。ですから、例えば地域の行事があって、議員として呼ばれて行きましたよというのがあるとか、自主的に行っているのはもちろんそういう状況ですし、会派としての活動、会派でなければ、それは会派活動ではない話になりますから、どちらかというところから抑えていくと、その他の時間というのは、議員としての活動となっていくのではないかとこの予測もできるかなと。だから、政務活動を政務活動というのは、明らかに政務活動としてやりますよと。例えば、それは政務活動費を使ってやっていますよという言い方をもちろん御自分がされても構いませんし、自費で出していますが、これは政務活動という形で自分は位置づけてやっていますよといえ、そうなりますよという形なので、確かにその範疇は難しいと思いますが、この項目立てで、少しそれを追っていただければ、最終的には、その他の時間は多くなってくる可能性は、松本委員さんのような方はふえてくる可能性はあるのではないかとこのことは、あらかじめ予測はしているところでございます。

○政野太委員長 福山委員。

○福山権二委員 議員の意見を聞いて、議員定数と報酬の議論をするときにそれを生かそうというのは、思いはいいと思う。そのときに、なぜこれがこんなに議論になるのかと考えたときに、このアンケートを、例えば商工会議所とか議会以外の団体が議員にアンケートを取ってみたいという意識性を持って、議員それぞれのやっていることをそれぞれ自白しろと。それで自分で自分を把握してみろということを集めて、集約して、こうだということの意見を出すということについては、聞くほうは聞けばそれでいいだろうけれど、議員みずからが問1や問2を書くときに書きにくいのですよね。市民に周知されているか、思わないとか。たくさん時間がないとか時間があるを書いて、どんなことしているとか、ほとんど活動していないとか。こういったものを出すときに、そのことと今回の定数のことが、我々がする自主的な行動とのリンクは、議員の中でどうも意思統一ができない。こんなことを自分たちが誰に出すのか、いや、特別委員会が出すというか、それだったら、もう少し定数と報酬に関して、もっと回答しやすいものがないのではないかとこの意見も実は出ている。あなた自身の居住地以外の地域に積極的に赴き、議員活動を行うことがありますか。ありはしないと書きたくない。正直に書けということでしょう。正直に書くのだけれど、何か身元調査をされているみたいな感じがして、もっと別の方法があるか、内容をみんなも積極的に回答しやすいような。元々議員が議員自身として、今の定数、報酬にどういう意見を持っているかというときに、自分自身の活動を一定程度点検をして、みんなが集約し合おうということをもっと意思統一されないと。いや、アンケートはみんなを集めたいということでしょう。このアンケートでいうと、ここにいる人もなかなか書きにくいということになると、もう少し、我々自身が決めないといけないのだけれど、事務局からいろいろ意見を聞く前に、我々で独自にもう少し判断する。

○政野太委員長 局長。

○花田讓二議会事務局長 今、福山委員さんが言われたそのものを議論していく上で、自分たちの中身を、一応確認しようというのがこのアンケートだったと理解しています。だから、定数を議論していく上で、自分たちはこういう位置づけでやっているのだ、こういう時間で活動しているのだということをも自分たちも確認しないと、反対側でいうと、議員が、活動が少ないのではないかと、表に出ない

ではないかという住民の意識があるではないかということが片方にありながら、それを外部でアンケートを取りに行きましょうという形でやっていった場合に、イメージをどうしてもぶつけられたときに、では、必要だ必要ではないということが出てくる。そこに、まずは行き着くのではないかという議論。ですから、自分たちは、自分たちがどういう活動をしている、どれぐらいの議員としての活動をやっているのかということ自分たちの中で押さえることも含めて、最終的にはその定数として必要であるのかどうかということにやっていくということは、自分たちの中でも点検が必要ではないかということがこのアンケートのスタートであったと、議論をされておられる。だから先ほど、福山委員さんが言われたそのものが既に議論されていると理解しております。

○政野太委員長 福山委員。

○福山権二委員 情報公開と、公式な会議で、公式に、市民にオープンにしてやっている活動としてやった場合に、この結果は数値も含めて全部公表するとなるのか。

○政野太委員長 このアンケートに関する議論はこれまでも重ねてきました。前回は案を提出させていただいて、もっと聞きたいことも実はあったのです。ただ、今、福山委員が言われるような懸念もあるので、いろいろな配慮を加えながら、この内容にまとめたものが、きょう提出させていただいたものだと思っております。さらには、ここには各会派の代表の方が集まっているものですので、それ以外の議員の方ももちろんこの倍以上いらっしゃるわけで、その方々の個人的な意見も反映していかないといけないものだと思っております。この委員会でも、まだ議論には入っておりませんが、さまざま、他市のいろいろな比較であるとか、そういったものを資料提供させてもらうことによって、共通の材料を持って議論を進めていく上で、その参考とするために、議員の意見ももちろん取り込んでいかないといけないという意味でこのアンケートを実施させていただくということで決めさせていただいたと、私は認識しております。内容について、もちろん個々、それはあるかと思えますけれども、私はこの、今の設問について市民の方に何ら公開することに問題があるとは思っていないのですけれども、いかがでしょうか。國利委員。

○國利知史委員 公開するということで、私も個人的には公開するのは、全然、もちろんやらなければならないことなのではないかなと思うのですが、この設問を見ると、市民の方が、議員が何しているのかと思っている人が多いと思うので、その人たちが見たときに、その人たちが知りたいことが結構含まれていて、設問的には、市民の人が見たときにすごく納得しやすい設問になっているかなと、個人的には思ったのですが、議員としてというか、市民の人から見たら、すごくわかりやすいというか、そういう設問になっているなと思います。

○政野太委員長 今、そういう御意見もありましたが、福山委員。

○福山権二委員 そういう意見があっても、全議員がそれで意思統一できればいいのだけれど、例えば國利委員が、これで、國利委員だと名前をつけてでも、これは出したほうがいいわけですか。

○國利知史委員 名前は出さないほうがいい。

○政野太委員長 福山委員、それは既に、皆さん認識済みです。先ほどの松本委員さんが言われた、私、365日議員だと思ってやっています。もうそれでいいと思うのです。だから、その他のところで、例えば1カ月なら、24時間掛ける30日か。そう書かれてもいいのではないかと思います。寝る時間だけは引いたほうがいいかとは思いますが、このアンケートで進めさせていただきたいのですけれどもいかがでしょうか。堀井委員。

- 堀井秀昭委員 福山委員が言われている面でひっかかる面が少しはあるけれど、この際だからそれぞれ議員が自分の議員活動を見つめ直す機会にもなるかもしれないし、こういったアンケートの結果が出てくるかは少し興味があるし、やってみよう。
- 政野太委員長 ここは多数決をとる場所ではないので、福山委員、前回は提出させてもらったとおり、これにいろんな考え方、思いがあれば、お伝えをいただければ助かったのですが、もちろんそれらをいただいた上で、配慮してつくったものがこちらですので、どうしてもということが皆さん一致してあれば訂正も考えたいと思いますが、これで進めさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。藤木委員、いかがでしょうか。松本委員もよろしいですか。横路副議長、よろしいでしょうか。
- 横路政之副議長 難しいから出さないというのは理由にならないから。
- 政野太委員長 近藤議長、よろしいですか。
- 近藤久子議長 隠すことは何もないと思うんですね。先ほど國利委員もおっしゃったように、市民の皆さん、かなりいろいろな方、いろいろな立場の方とお話する中で、庄原市の議員定数、何人か知っておられますかと言えば、よくわからない人も実際おられるわけですよ。会うことがない。議員さん、何されているかよくわからないのだけれど、直接言われたことはありますけれど。人数さえもなかなか理解されていない。議員は何しているのかという人が多い中で、議員は何しているのかということには、きちんとお答えするほうがいいと思いますし、隠す必要は全くないと。寝ながらでも考えることができるでしょう。あしたの一般質問はどうのこうのとか、もう常に24時間、夜でも電話がかかってくる場合がありますから、そういう活動も含めて書けばいいのかなと思います。
- 政野太委員長 國利委員、よろしいですか。桂藤副委員長、福山委員もこれで御了承いただければと思いますが、よろしいでしょうか。
- 福山権二委員 いいとは思わないけれど、これをやるのなら、うちうちの会派で説明するけれど、これは自分たちのことを再点検するためにするのだと。それも、市民に全部出すのだということをやろうという意思統一そのものをきちんとしておかないと、取り始めてから嫌だなどと言い出したり、これを書くときに斜線で、私は回答しないということもオーケーにすることになるので、その目的も1回、自分自身を点検してみようと。市民がどれだけを思っているかは別にして、市民に対して公表するということについて、自分自身の点検をしてみようということでもやってみようということなら。真面目に書いてくれと言わないといけない。
- 政野太委員長 それはもちろん。それでは、いろいろ御意見をいただきましたけれども、このアンケートで進めさせていただくということで御了承いただいたということをお願いいたします。では、この日程について、事務局から御説明をお願いします。横山係長。
- 横山和昭議会事務局議事調査係長 それでは、今、アンケートの実施について、皆さん御了承いただきましたので、来月、議員全員協議会を予定されておりますので、その席で、まず、委員長から皆さんの御意見があったように、アンケートを実施する趣旨という形で議員の皆様へ御説明をいただいて、統一の認識のもと、こちらのアンケートに皆様御回答いただければと考えております。このアンケートの公表も並行しながら、あわせて年度内には市民さん向けのアンケートの実施に向けた準備、発送を進めたいと考えております。もう年が明けますと、結論までいったら1年弱になってきますので、少し審議のスピードを上げながら、皆さん取り組んでいけばと考えておりますのでいかがでしょうか。

---

## 2 今後の審査について

- 政野太委員長 國利委員。
- 國利知史委員 市民の方へのアンケートの内容についても、また、議論するということよろしいですか。
- 政野太委員長 市民アンケートについても、ほかの議会もいろいろされているので、そういうのも参考にしながら、また、素案を出させていただいて、議論、検討していきたいと思います。それを決めるのに日程が、11月に市民と語る会があったり、12月定例会があったりして、回数が1、2回遅れているかなという雰囲気ですので、1月以降、委員会の回数がふえるということもあると思いますが、御協力お願いします。局長。
- 花田譲二議会事務局 年明けの議員全員協議会なのですが、20日前後の中旬以降で議員全員協議会の予定を、今、組んでいる最中でございます。日程はまだ正確にはお伝えできませんが、その頃には全協を開くという別の項目もあると思いますので、それを含めて、そのときに、こちらのところも御報告いただければと考えております。

---

## 3 その他

- 政野太委員長 今の、2の協議事項の、今後の審査についてという流れだったのですけれども、その他何か。近藤議長。
- 近藤久子議長 以前、委員会のスケジュール案をお示しになりました。この表で。それには、中間報告を何月までにするとか、公聴会は5月、6月、7月ぐらいにしたらどうかとかいう御意見も出ていたのですけれども、その確認を。
- 政野太委員長 スケジュールの確認ですが、大まかなことだけ言いますけれども、定数に係る資料の収集及び整理、分析がこの12月末までの予定でした。それから、アンケートの実施というのは、議員アンケートというのは最初の段階でなかったもので、ないのですけれども、令和5年1月に、定数について中間報告ということにはなっていたのですけれども、これはずれ込んでいくと思います。市民アンケートをどうするか。横山係長。
- 横山和昭議会事務局議事調査係長 確かに、当初の計画と比べますと若干審議のスピードが遅れぎみになっていると思いますので、再度、事務局と委員長で日程について調整をして、次回はなるべく早めに皆様に、またお示しをした上で御協議いただければと思いますが、いかがでしょうか。
- 近藤久子議長 それで結構です。
- 政野太委員長 その他、何かございますでしょうか。
- 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
- 政野太委員長 ないようでしたら、本日の協議事項を終わらせていただきまして、特別委員会を散会させていただきます。次回の予定については、また、御案内させていただくことになると思いますが、よろしくをお願いします。

午前10時30分 散 会

---



庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

議員定数及び議員報酬調査特別委員会

委員長